

安心・安全・安楽な介護の実践と効果

～人と介護テクノロジーの共生～

社会福祉法人喜寿会
特別養護老人ホーム七美ことぶき苑
サブリーダー・機能訓練指導員 平井俊輔

社会福祉法人喜寿会

1992年設立

富山県射水市（新湊地区）

七美拠点

- ・ 特別養護老人ホーム 90床
- ・ ショートステイ 9床
- ・ デイサービスセンター 45人
- ・ 居宅介護支援事業所

足洗拠点

- ・ サープレイ足洗温泉デイサービス
- ・ 介護予防事業（射水市委託）

職員 約110名



はじめに

保健衛生業における生産性向上に対して、基本的な作業姿勢の見直し（教育）と介護テクノロジーの導入により安心・安全・安楽な介護の提供を実践している。その取り組み内容をプロジェクト化に至った経緯も含めて報告する。



腰痛予防プロジェクト始動！

福祉用具導入・体制整備からパラダイムシフトへ

2015年4月～ 準備、腰痛予防研修、リフトリーダー研修に職員派遣
練習用床走行リフト導入、ICT整備

2017年9月 腰痛予防プロジェクトキックオフ、シート、ボードを購入
車椅子、ベッドを順次入れ替え

2018年1月 特浴脱衣場に天井走行リフト設置

2018年4月～ 腰痛予防対策推進福祉施設に向けマニュアル等整備

2018年10月 腰痛予防対策推進福祉施設の指定

2018年10月頃 特浴リフトで「ラクのトリクルダウン」発生
パラダイムシフト発生の瞬間！

2024年 安心・安全・安楽な介護の継続

安心・安全・安楽な介護を目指して

「テクノロジーを使うのは人」

- ・どんな良いテクノロジーを導入してもそれを使用する人（職員）の姿勢や理解がないと生産性は向上しない。



基本的な姿勢の周知×テクノロジーの理解

どう取り組むか？

取り組みのコア

1. 経営層の直属のプロジェクトとして組織化

- ・ 委員会とは別組織とすることで主要メンバーの固定化
- ・ 導入までの時間の短縮（スピード感をもつ）

2. 外部より講師を招聘し定期指導を実施

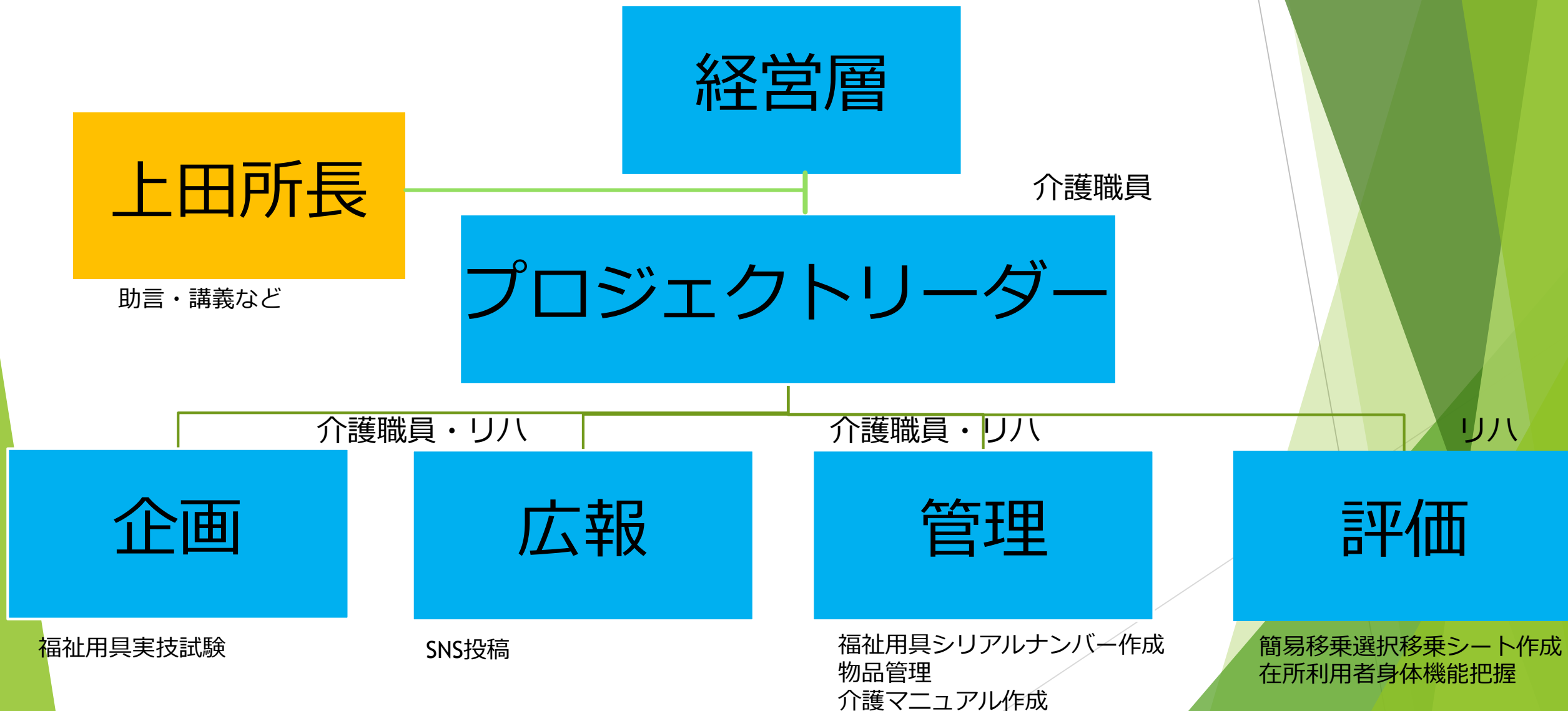
- ・ 上田喜敏所長（安全なケア研究所、工学博士、理学療法士）を招聘し、第3者の目を入れることで客観的な意見や課題を抽出できる。
- ・ 介護テクノロジーの正しい使用方法を、その根拠から理解することができる。

3. アセスメントによる介護テクノロジーの選定

- ・ 腰痛予防チェックリストにてどの介助場面の腰痛リスクが高いかを可視化する。
- ・ 簡易移乗介助選択シートにて在所者全員の状態を評価する。
- ・ 上記2つの評価により、導入の優先順位をつけて効率の良い導入につなげる。

腰痛予防プロジェクト組織図

2017年9月より、上田喜敏所長（安全なケア研究所、工学博士、理学療法士）を招聘し、法人全体で腰痛予防に取り組んでいる。



テクノロジーの理解

2017年～

定期指導（職員教育とテクノロジーの理解）



- ・ 専門家の視点
- ・ 第三者の視点



講義：「なぜ必要なのか」を理解
実技：正しい使用方法の理解

2018年～

リフト使用許可試験（質の担保）



- ・ 試験者
- ・ 試験官
(リフトインストラクター)
- ・ モデル

介護職員全員対象

試験内容

オリエンテーション、姿勢、操作、リスク管理

正しい使用方法の確認

基本的な姿勢の見直し



中腰での体位変換



ベッドの高さを調整



中腰での操作



重心を低くしての操作



中腰での脱着



屈んで脱着

テクノロジーだけに頼らない意識の構築（教育）

介護作業者の腰痛予防対策チェックリスト（職員）

介護作業者の腰痛予防対策チェックリスト

職場名:		記入日: 年 月 日	
氏名:		性別: 男・女	年齢: 歳
身長: cm	体重: kg	腰痛の有無: 有り・無し	

【使用方法】

- ① 該当する介護サービスの□にチェック(レ)を入れてください。
- ② 行っている介助作業の□にチェック(レ)を入れてください。該当する介助作業がない場合は、「その他」の項目に作業内容を書き込んで使用してください。
- ③ 「リスクの見積り」の該当する評価に○を付けてください。「リスク」は、「リスクの見積り」の、それぞれの評価(a、b、c)においてa評価が2個以上で「高」、a評価が1個含まれるか又は全てb評価で「中」、bとcの評価の組み合わせ又は全てc評価で「低」に○をつけてください。
- ④ 「リスクを低減するための対策例」を参考に対策を検討してください。

①介護サービス: ☐ 施設介護 / ☐ デイケアサービス / ☐ 在宅介護		③リスクの見積り						リスクの要因例	④リスクを軽減するための対策例 (概要)
②介助作業	具体的な作業内容	作業姿勢	重量負荷	頻度/作業時間	作業環境	リスク			
☐ 着衣時の移乗介助	要介護者が服を着ている時の入浴、身洗、洗髪に伴う移乗介助	a 頻繁 b やや不良 c 良	a 大 b 中 c 小	a 頻繁 b 時々 c ほぼなし	a 問題 b やや問題 c 問題なし	高 中 低			
☐ 非着衣時の移乗介助	要介護者が服を着ていない時の入浴、身洗、洗髪に伴う移乗介助	a 頻繁 b やや不良 c 良	a 大 b 中 c 小	a 頻繁 b 時々 c ほぼなし	a 問題 b やや問題 c 問題なし	高 中 低			
☐ 移動介助	要介護者を支援するための歩行介助、車椅子での移動介助	a 頻繁 b やや不良 c 良	a 大 b 中 c 小	a 頻繁 b 時々 c ほぼなし	a 問題 b やや問題 c 問題なし	高 中 低			

自分達の職場の現状・問題点を知ることが大事！

何が必要か把握できる！

移乗ツールのアセスメント（在所者）

簡易移乗介助選択シート

2016 年報

このシートは、ベッド・車椅子・ポータブルトイレなどへの移乗方法を選択するシートです。利用者/患者によって、身体機能が変化した場合や認知症などによって協力的でない場合は、安全性を考慮した上で移乗方法を検討して下さい。身体状況がよくわからない場合には、専門職に相談の上、一緒に検討してください。

軽度	スタート			
①	自力で安定した立ち上がりや方向転換ができる	はい	必要に応じて、動作の見守りや誘導、声掛け、ベッド高さ調整、滑り止めマットなど	☒
	いいえ	はい		☐
②	何かにつかまれば自力で立ち上がりや方向転換ができる	はい	ベッド用介助バー、手すり、マットレス選定、声掛けでの誘導	☐
	いいえ	はい	※立ち上がり一立位保持の場合 非電動スタンディングリフト（前方サポートタイプ） （後方サポートタイプ）	☐
③	手すりなどにつかまる力があるかつ自力又は誘導で床よりお尻を浮かすことや左右に身体を傾けることができる	はい	※座位の場合 スライディングボード（座位移乗） （自力又は見守り）	☐
	いいえ	はい	※座位の場合 スライディングボード（座位移乗） （一人介助）	☐
④	座位を保つことやお尻を左右に傾けることはできる（下肢で踏ん張る力が若干ある）	はい	※座位の場合 スライディングボード（座位移乗） 介助ベルトとの併用（二人介助）	☐
	いいえ	はい	※座位の場合 スライディングボード（座位移乗） 介助ベルトとの併用（二人介助）	☐
	一人介助に負担や困難さがある場合	はい	※立ち上がり一立位保持の場合 電動スタンディングリフト（前方サポートタイプ） （後方サポートタイプ）	☐
	体重が重い（介助負担が大きい）場合	はい	電動スタンディングリフト（前方サポートタイプ） （後方サポートタイプ）	☐
⑤	介助にて座位を保つことが困難で、起き上がりも全介助が必要であるかつ背や関節可動域（特に股関節）、痛みなどに問題がない	はい	床行走型、ベッド固定型、レール行走型（天井走行、据置型）などのリフト及び吊り具の選定	☐
	いいえ	はい		☐
⑥	関節疼痛、痛み、筋力低下など全身状態が不変で寝たままの姿勢である	はい	リフト及び特殊な吊り具（リフト移乗） エアシステムなど	☐
重度		はい		☐

移乗移動に係る看護と介護研究会作成/改定

利用

第 1 次試験 科目別対策 作問日 2019/4/30

簡易移乗介助選択シート

(2019年度)

このシートは、ベッド・車椅子・ポータブルトイレなどの移乗方法を選択するシートです。利用者の身体状況によって、身体機能に応じた適切な移乗方法を選択することが可能で、安全な移乗を導くことで移乗方法を検討して下さい。身体状況がよくわからない場合には、専門家に相談の上、一緒に検討してください。

軽度 ↑ 重度 ↓		スタート			
	①	自力で安定した立ち上がりや方向転換ができる	はい	必要に応じて、動作の指導や保護、補助スリッドマットを使用し、滑り止めマットなど	☐
	②	肩からつま先までの自力で立ち上がりや方向転換ができる	はい	ベッド側面クレーン、昇降台、サドルレス固定、車椅子での移動	☐
	③	手すりなどにつかまえる力があるが自力では腰まで届かないため手を支えたり身体を傾けることができる	はい	*立ち上がり・立位維持の場合 非電動スタンディングリフト（履きサポートタイプ） 履きサポートタイプ *電動の場合 スライディングボード（補助使用） 履き足は補助用	☐
	④	腰は床の上に支えられ立つことが出来るが、手動で起き上がる力が不足する	はい	*電動の場合 スライディングボード（補助使用） 一人介助	☐
		一人介助に費用や時間がかかる場合 体重が重い(70kg前後)の人が多い場合は	いいえ	*電動の場合 スライディングボード（補助使用） 自動ベルトとの併用（二人介助）	☐
	⑤	自分で起きる等つことば困難で、起き上がりも自力で出来ないかたでも手動で両足を動かす時に補助器、車椅子などで補助が必要	はい	*立ち上がり・立位維持の場合 電動スタンディングリフト（履きサポートタイプ） 履きサポートタイプ	☒
	⑥	腰膝内股、連坐、股関節下位で歩行能力が不足して歩行不能の状態である	はい	床ずれ防止、ベッド設置型、レール車椅子型（改良型）、車椅子型などのリフト及び特殊車両のリフトシステムなど	☐

※身体状況により適切な移乗方法は複数ある場合があります。

既往歴

古大腿静脈血栓症、術前症候群、術中症候群、深部静脈血栓症、高血圧症、糖尿病、リウマチ性多発節痛症、子宮頸癌摘出後・イレウス

治療法

備考

利用者基本情報:氏名、生年月日等

使用ツール選定

既往歴

移乗方法: 使用ツール、スリングの種類
等
備考: 注意点等

状態・環境の変化に合わせて
アセスメントを！

介護テクノロジー名と台数

- 毎日使用
- △ 時々使用
- ▲ デイサービスで主に使用

○	スライディングシート	43枚
△	スライディングボード	14枚
○	リフト	
	床走行式リフト	
△	ゴルボ（シーホネンス）	1台
○	（パラマウントベッド）	2台（特養・デイ）
○	マキシツイン（アルジョジャパン）	1台
○	MX（日本ケアリフト）	2台（デモ1台）
	据え置き型リフト	
○	ライズアトラス（日本ケアリフト）	5台
・	スタンディングリフト	
▲	移乗サポートロボット Hug（Fuji）	6台
△	サラフレックス	2台
○	ティルトリクライニング車いす	18台
○	モジュール型車いす	20台程
○	眠りスキャン	120台（全室）
○	インカム	40台程
○	i pad	17台
○	サイボウズ（グループウェア）	
○	介護記録ソフト「ほのぼのNEXT」	

ほぼ毎日稼働（使用）！

テクノロジーの使用

<福祉用具>



腰痛有訴者率↓（後述）

<インカム>



大声↓ 在所者・利用者の尊厳守る

在所者（利用者）も職員も

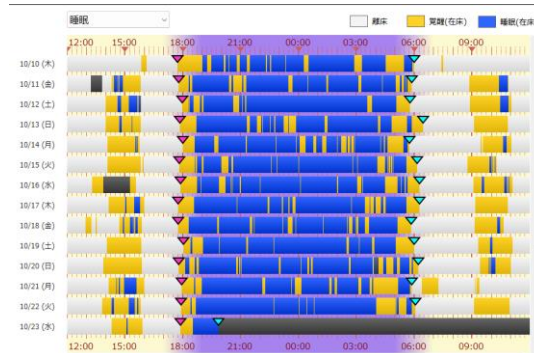
安心・安全・安楽

<グループウェア>



- ・無駄な作業の減少↓
- ・情報伝達のスピード↑

<見守りセンサー>



- ・定期巡回の廃止で職員負担↓
- ・在所者の睡眠時間確保

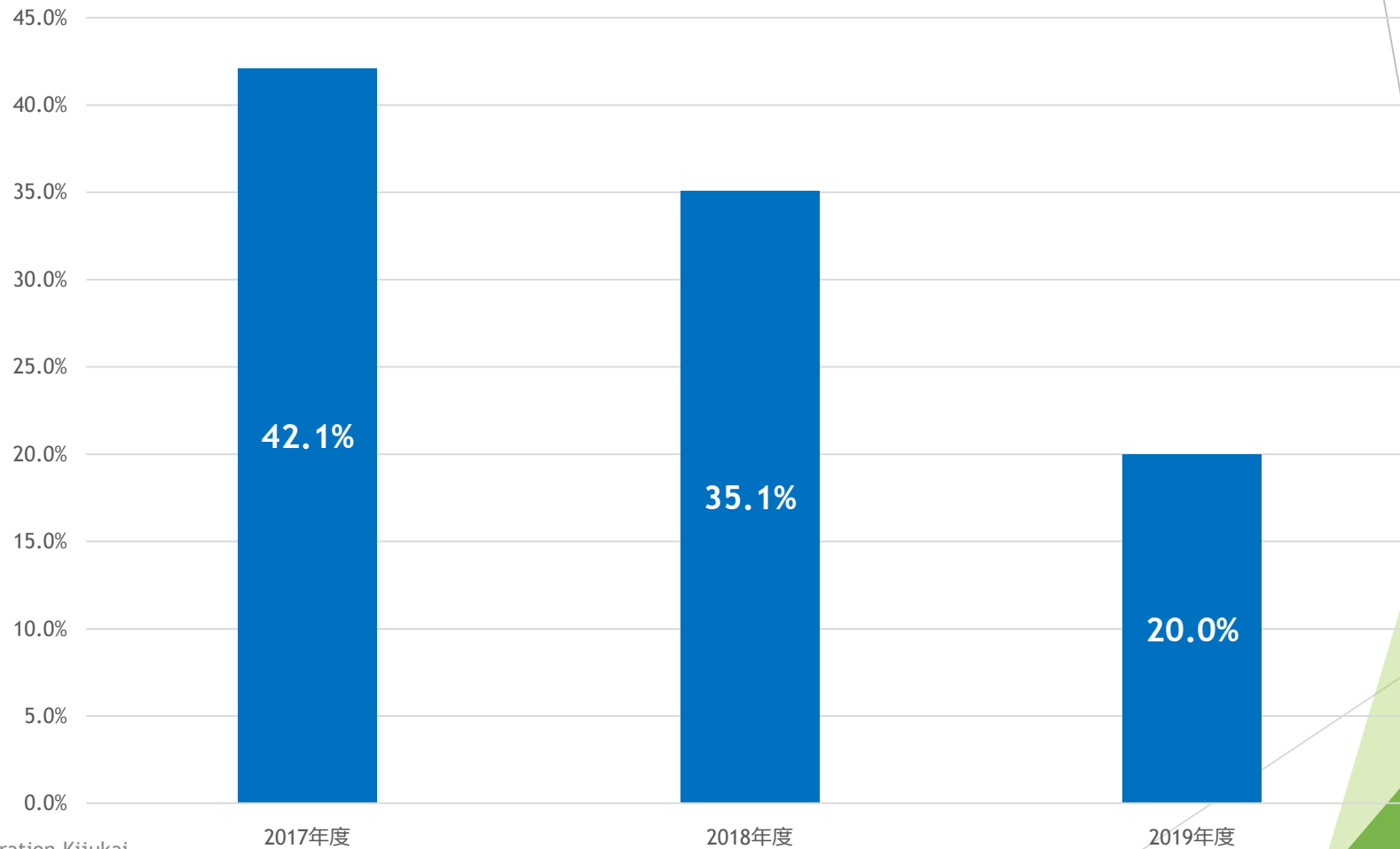
介護テクノロジーの導入の効果

- ・ 腰痛有訴者率の減少
- ・ 皮下出血の件数減少
- ・ 接触面積の減少
- ・ 社会的認知度の向上

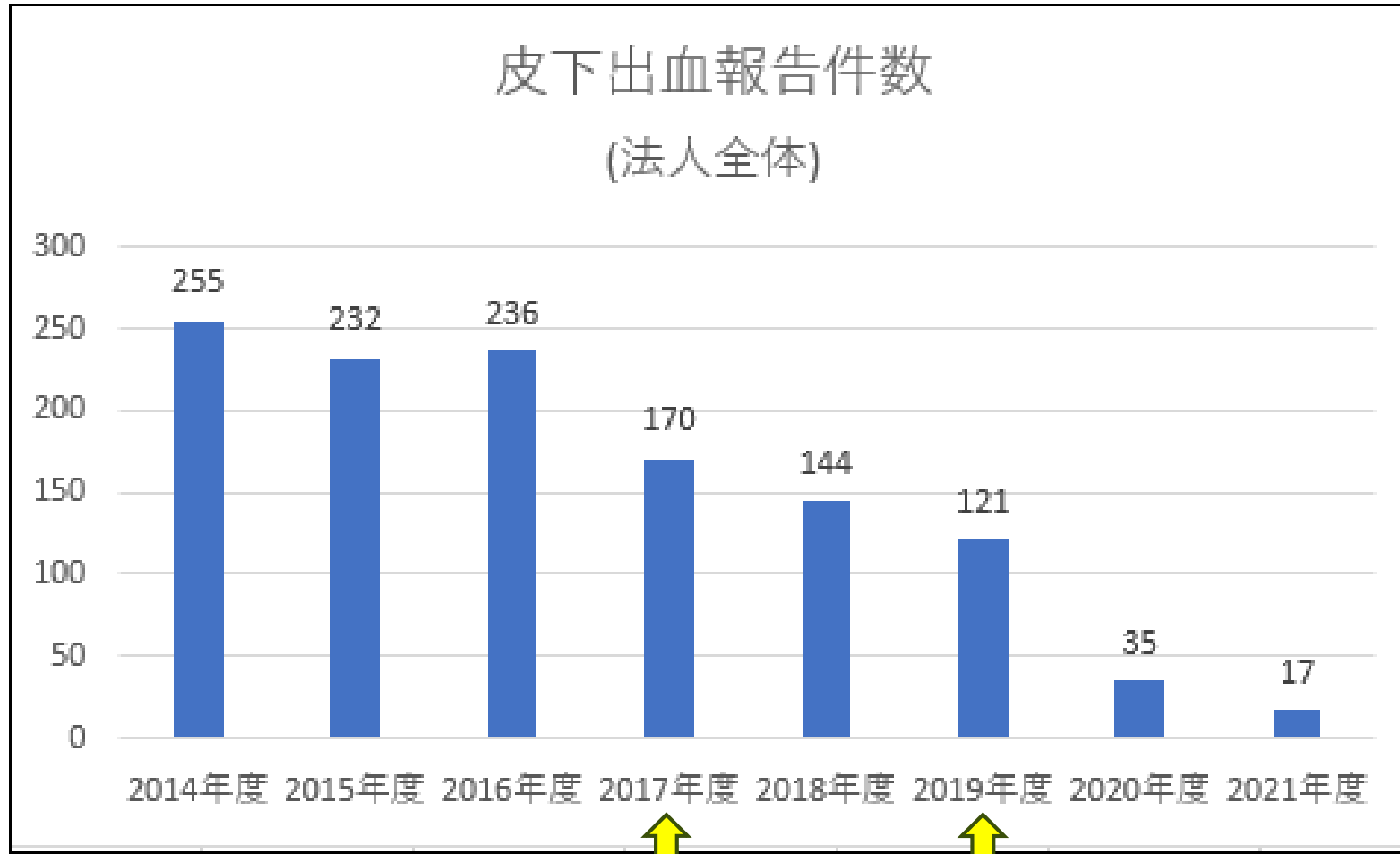
腰痛有訴者率

(特養・ショート N=60)

腰痛予防対策チェックリストにて調査



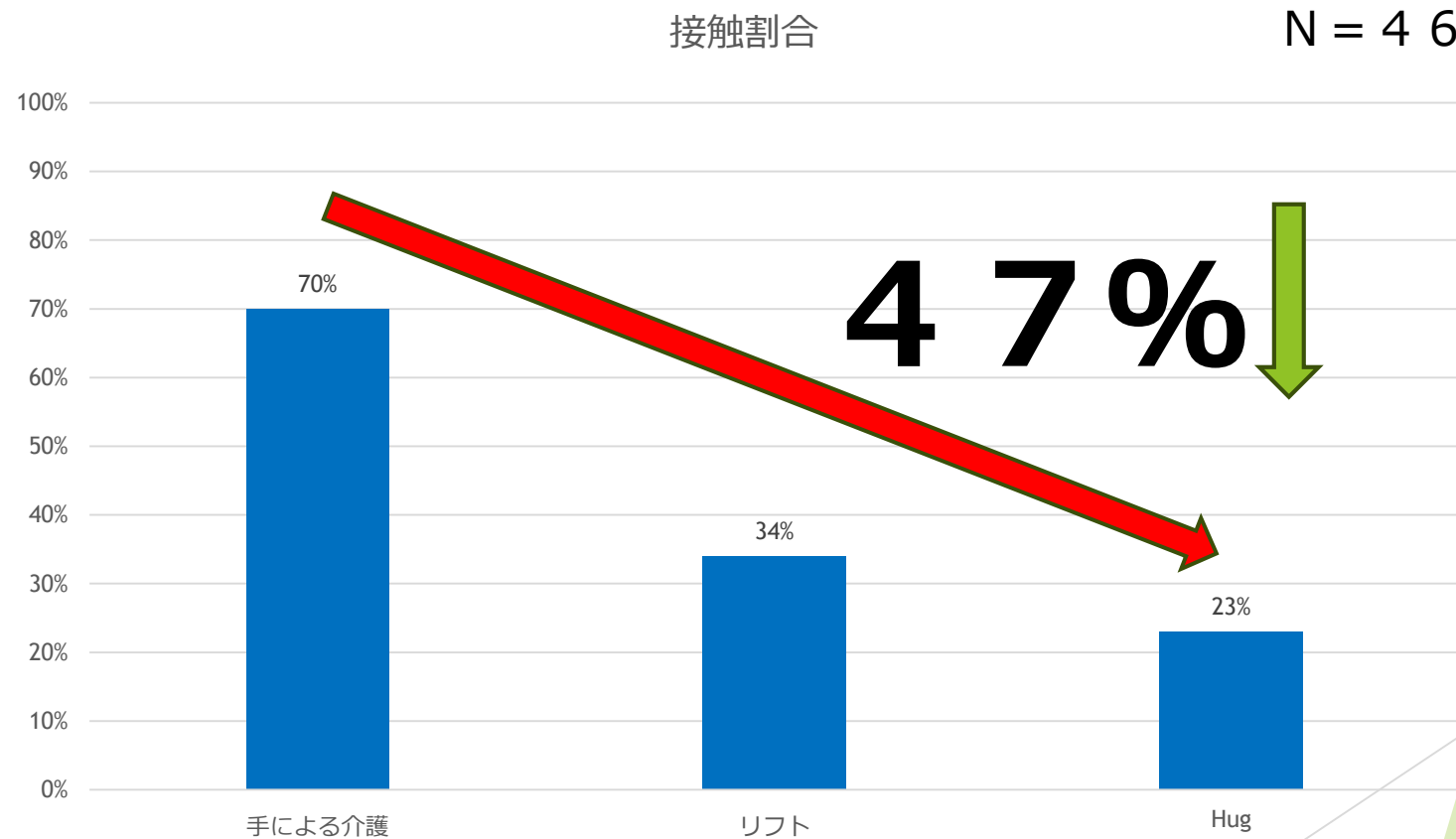
皮下出血件数



↑
YPJ発足

↑
介護テクノロジーの導入本格化

手による介護とテクノロジーを使用しての接触面の違い



感染リスク・ハラスメント対策に活用できる可能性あり！

令和3年度介護の魅力発信CM撮影協力



2021/10/27-11/2 富山県の民放3局
(北日本放送、富山テレビ、チューリップテレビ) で計165本放送！

厚生労働省老健局の先進事例視察



2021/11/2 腰痛予防プロジェクトの様子や、リフト等の現場での活用についての視察の他、改善の経緯やポイント等のヒアリングが行われました。

養成校・労働安定センターからの講義依頼



認知度向上により当苑を知ってもらおうチャンス！

がんばる介護事業所3年連続受賞



計測結果 (2021年3月、11月)	喜寿会	他の特養・老健 165人	
	13人の平均	モデル職員	日勤
計測日			
腰痛リスク	33%	38%	58%
前傾回数	272	767	803
前傾中のひねり回数	249	800	976
前傾時間合計	0:13:20	0:44:43	1:33:42
ひねり合計時間	0:11:06	0:45:13	1:24:59
1回の前傾平均時間	0:00:02	0:00:03	0:00:08
1回のひねり平均時間	0:00:02	0:00:03	0:00:18
前傾率	3.5%	8.9%	18.7%
ひねり率	2.9%	9.0%	17.0%
総合時間	6:21:22	8:21:44	8:20:30

2021/12/27 腰痛予防の成果を数値データで明らかにし、富山県がんばる介護事業所表彰雇用環境部門を3年連続で受賞しました。

まとめ

基本的姿勢の見直し × テクノロジーの導入（職場定着）
（人） （テクノロジー）



利用者様も職員も安心・安全・安楽に！！



介護の生産性向上を図ることで、
ケアの質の向上を図っている。

介護における生産性向上について

上位目的

介護サービスの
質の向上

働く人のモチベーションの向上
楽しい職場・働きやすい職場づくり

人材の定着・確保

業務改善に
取り組む意義

人材育成

チームケアの
質の向上

情報共有の
効率化

グループ活動 かき氷祭り



デイサービス



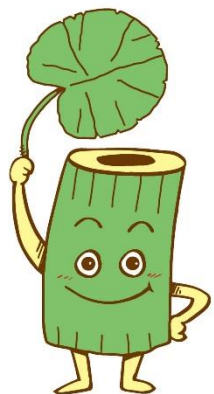
畑の看板作り & 畑作り

畑の看板を作り、
夏野菜を植えました。
収穫した枝豆はみなさん
と食べました☆





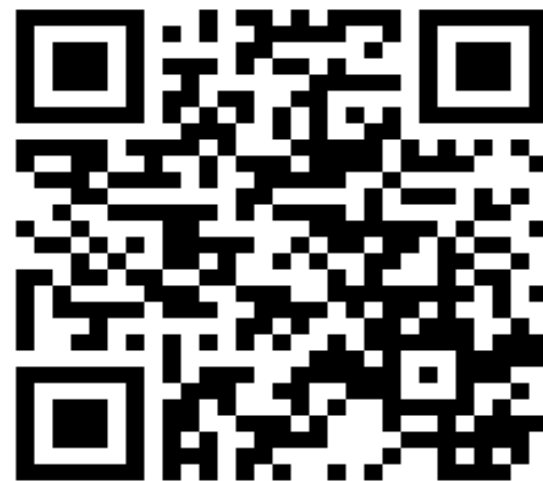
この笑顔のために



ご清聴ありがとうございました。



ホームページ



お問い合わせ：ホームページ内お問い合わせフォームより
社会福祉法人喜寿会 <http://kijukai.or.jp/publics/index/3/>

ICT・IoT機器の活用による 安心・安全なケアの実践

令和6年11月6日

特別養護老人ホーム 自生園

機能訓練指導員 若村浩樹

施設紹介

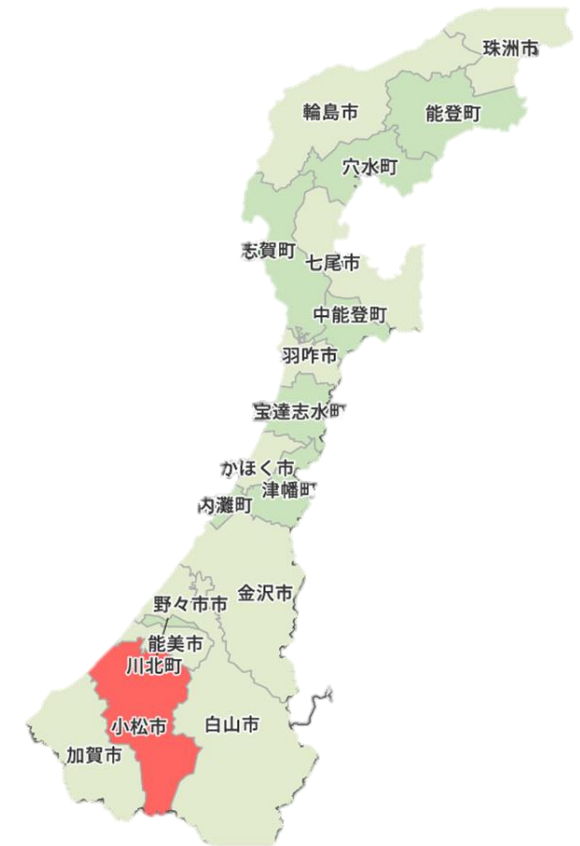
社会福祉法人 自生園の紹介



＜社会福祉法人 自生園＞
設立母体である那谷寺の教えのもと
活動する社会福祉法人



＜法人理念＞
自から生きることを思い
自から活かされてあることを知って
自他の幸せを願いながら
お互いの幸せのために行動する
人と人の絆を大切にすること
それが**私たちの仕事**です



石川県小松市

特別養護老人ホーム 自生園の紹介

定員	100人 + ショートステイ8人
居室	多床室
稼働率	96.3%
平均年齢	85.35歳（65～101歳）
平均要介護度	4.05
医療処置	胃瘻管理11名 透析1名 喀痰吸引8名 インスリン4名
職員	計63名 介護職39名 看護師9名(うち准看護師3名) 社会福祉士1名 介護支援専門員2名 管理栄養士1名 歯科衛生士1名 作業療法士2名、マッサージ師1名、用務員等



* R6年9月時点

本日の内容

1. ICT・IoT機器導入までの流れ
2. ICT・IoT機器の活用について
 - ・具体的な活用方法，導入後の効果
3. 現在の課題について
4. まとめ

ICT・IoT機器導入までの流れ

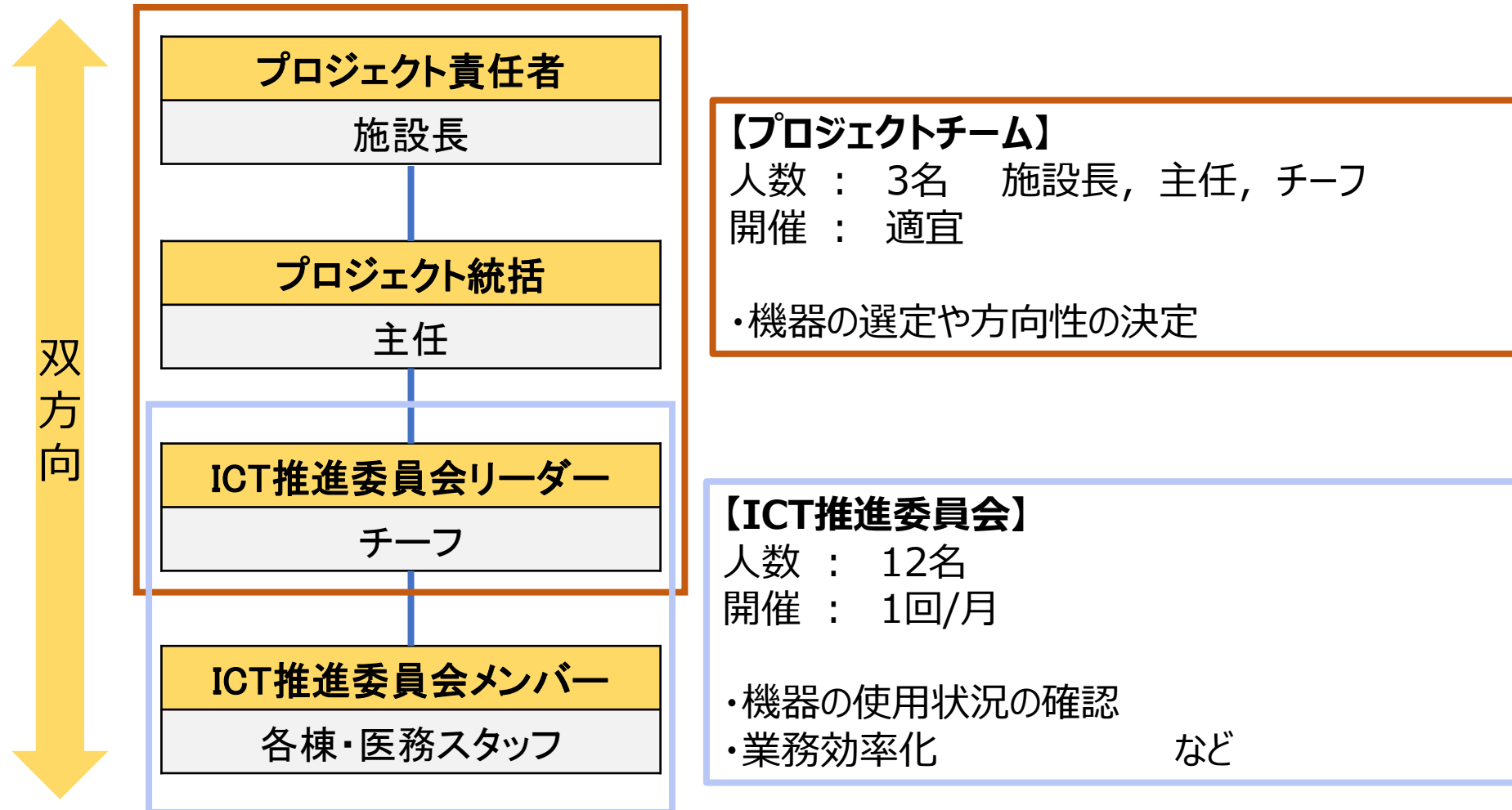
導入までのプロセス

1. プロジェクト・委員会の立ち上げ
2. 課題抽出
3. 導入計画（機器の選定，予算）
4. 導入（現場での活用場面や使用方法の説明）

プロジェクト・委員会の発足

プロジェクト体制図

＊H29年発足



課題・計画

自生園特養の課題と計画

	課題	計画
記録	- 記録・情報収集がPCに限定 - タイムリーな情報× - 業務終了後にまとめて入力 	- いつでも、どこでも入力・確認 - タイムリーな情報を提供 
情報共有	- 紙媒体・口頭での情報伝達 - 情報集約がされていない - 情報収集の正確性に欠ける 	- 電子媒体の活用 - 情報の一元化 
転倒・転落，急変	- 訪室するまで状況がわからない - 転倒後の発見 分析不十分 - 職員の精神的負担が大きい 	- リアルタイムに状況を把握 - 異変を未然にキャッチ 
入居者へのケア	- 客観的データ，根拠が乏しい - なんとなくのケアになりがち - 正確な能力の把握が不十分 	- 客観的データ - 根拠のあるケアへ 

ICT・IoT機器の活用について

ICT・IoT機器導入の経過

年	IoT	ICT
2012年（平成24年）		PC, ニンテンドーDS 導入 食事、排泄、入浴の入力
2017年（平成29年）		ICT推進チーム発足 タブレット7台 使用開始
2018年（平成30年）	全館 W i - F i 環境整備	
2019年 （平成31年 令和1年）	aams, 見守りケアシステムM-2 Neos + care	タブレット19台追加導入 計：26台
2020年（令和2年）	Neos + care 追加導入	
2021年（令和3年）		
2022年（令和4年）	無線ナースコール導入（60台）	モバイル20台導入（うち SIM3台 ） （タブレット→ モバイル へ）
2023年（令和5年）		モバイル（ SIM ）2台追加

ICT機器の活用について

ケア記録 ワイズマン「すぐろくtablet」活用



タイムリーな情報提供が可能に

【24生活一覧】

24生活一覧					
令和05年 09月 26					
利用者グ... > 本館特別食					
☒ 合計情報を表示する					
	堀川102	鳥丸7	東山2	鳥丸8	堀川105
	食事朝 0割 食事 昼 3割 水分 530 ml	水分 400ml	食事朝 10割 食事 昼 10割 水分 59 0ml	食事朝 10割 食事 昼 10割 水分 70 0ml	食事 昼 4 ml
	お茶150			お茶・イオ ト③+①300	水 ③
	歯磨き			歯磨き	口
9 09:45			充電 日曜日A 1 10時～		
10 10:00				バレーン破棄	水分150 ml ②
					口腔ケア
11 11:30	昼食	高カロリー12 5 トロミ2.5	昼食	昼食	昼
	高カリ-125	ヨーグルト10 0	ト② ジュース30 0cc	高カリ-ジュース4 0 ト③	高 ミ2
	お茶150	水分300 ト ③	口腔ケア	お茶・イオ ト③+①300	水 ③
	歯磨き	口腔ケア		歯磨き	口
12 12:30					
14 14:00					
15 15:00		口腔ケア			口腔ケア

【温度板】



■ 24生活一覧にて実施状況を入力

タイムリーな情報を発信
食事水分・口腔ケアなどを確認

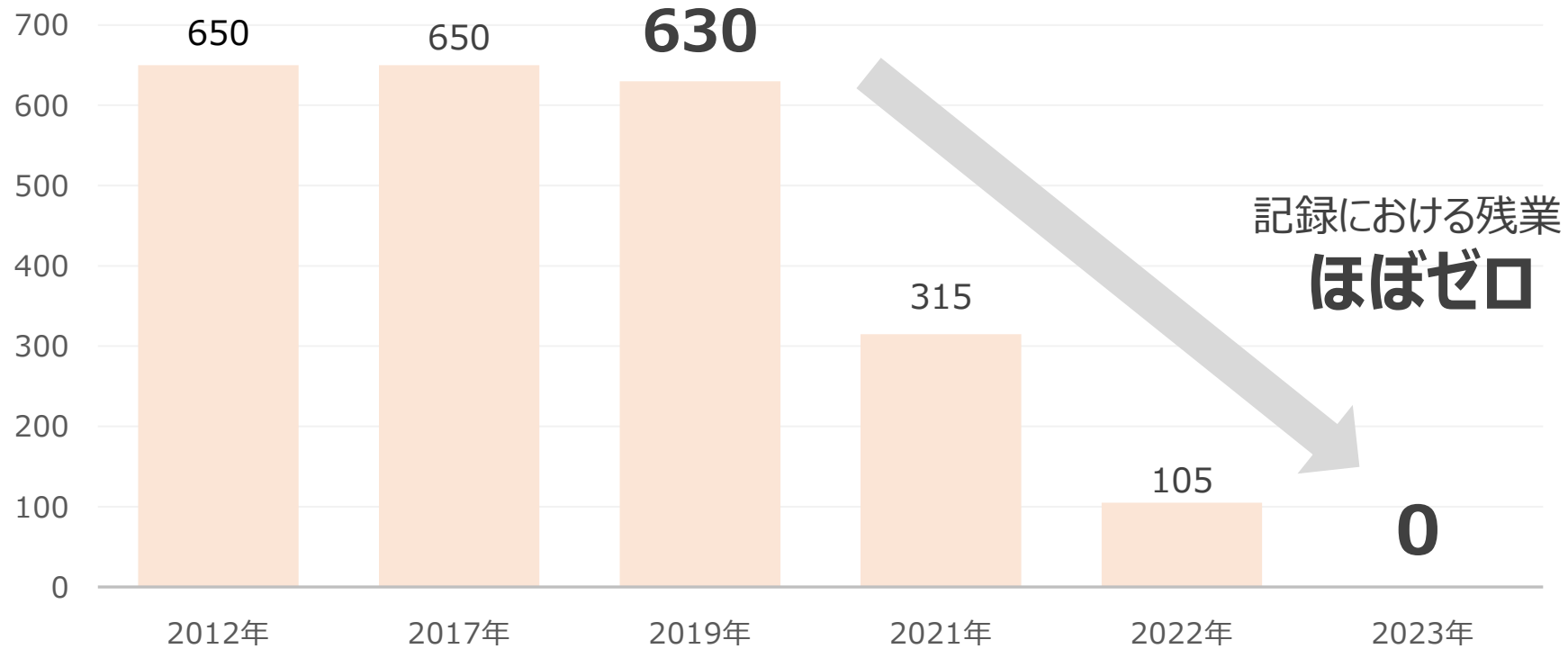
■ 温度板の活用

入居者ごとに食事量・バイタルの確認が可能
往診や受診時に医師へ提示

■ 受診時の記録

待ち時間や帰りの車中にて入力

記録における残業時間（分）



* 2019年：タブレット26台体制へ

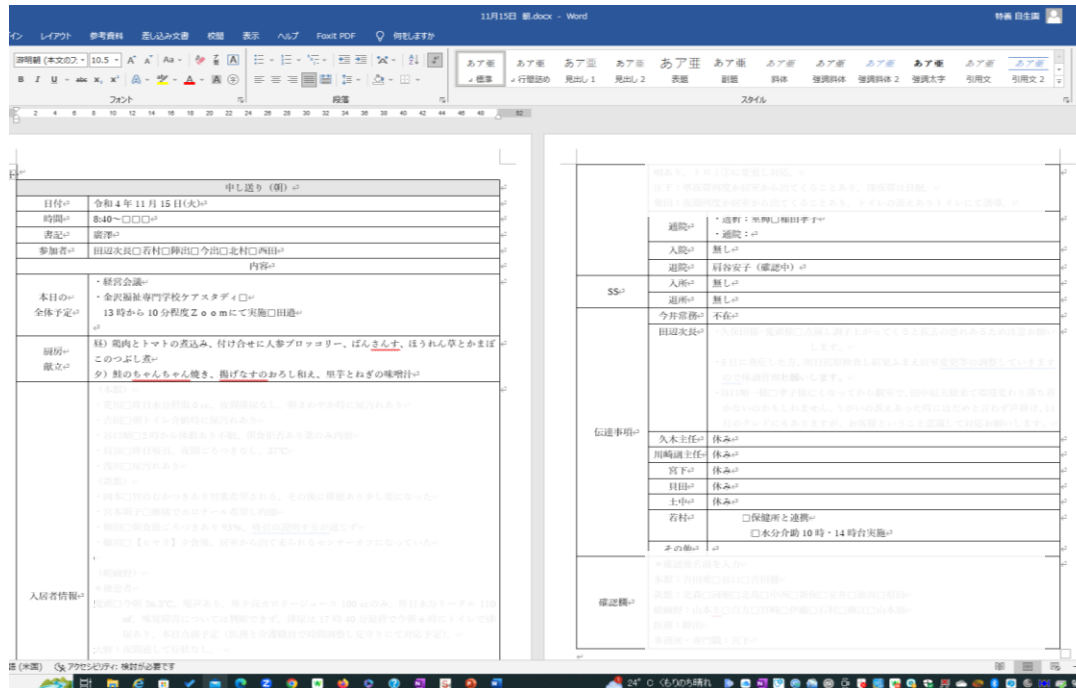
* 2022年：モバイル使用開始

申し送り情報の一元化



紙媒体での申し送り廃止，情報の正確性が改善できた

【特養全体の申し送り】 * R2年3月開始



- 2回/日実施（8時40分，15時45分）
 - * 一日の予定，入居者の情報，伝達事項など
- Microsoft Wordで作成
- クラウドサービス「oneDrive」に保管
- タブレット，モバイルで閲覧可能

IoT機器の活用について

当園で使用しているIoT機器

(株) バイオシルバー
aams



5台

フランスベッド (株)
見守りケアシステムM-2



4台

ノーリツプレジジョン (株)
Neos+care



7台

* R6年10月時点

IoT機器活用における視点

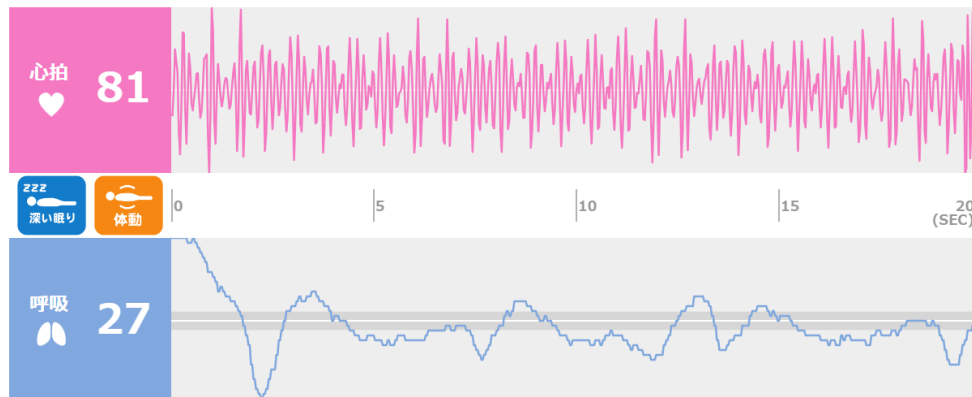
	aams	見守りケアシステムM-2	Neos+care
健康状態の把握	✓ 看取り期のケア	—	—
評価	✓ 睡眠調査	✓ 行動把握	✓ 行動把握
予防	—	✓ 転倒予防	✓ 転倒予防

健康状態の把握 【看取り期のケア】

機 器 : aams

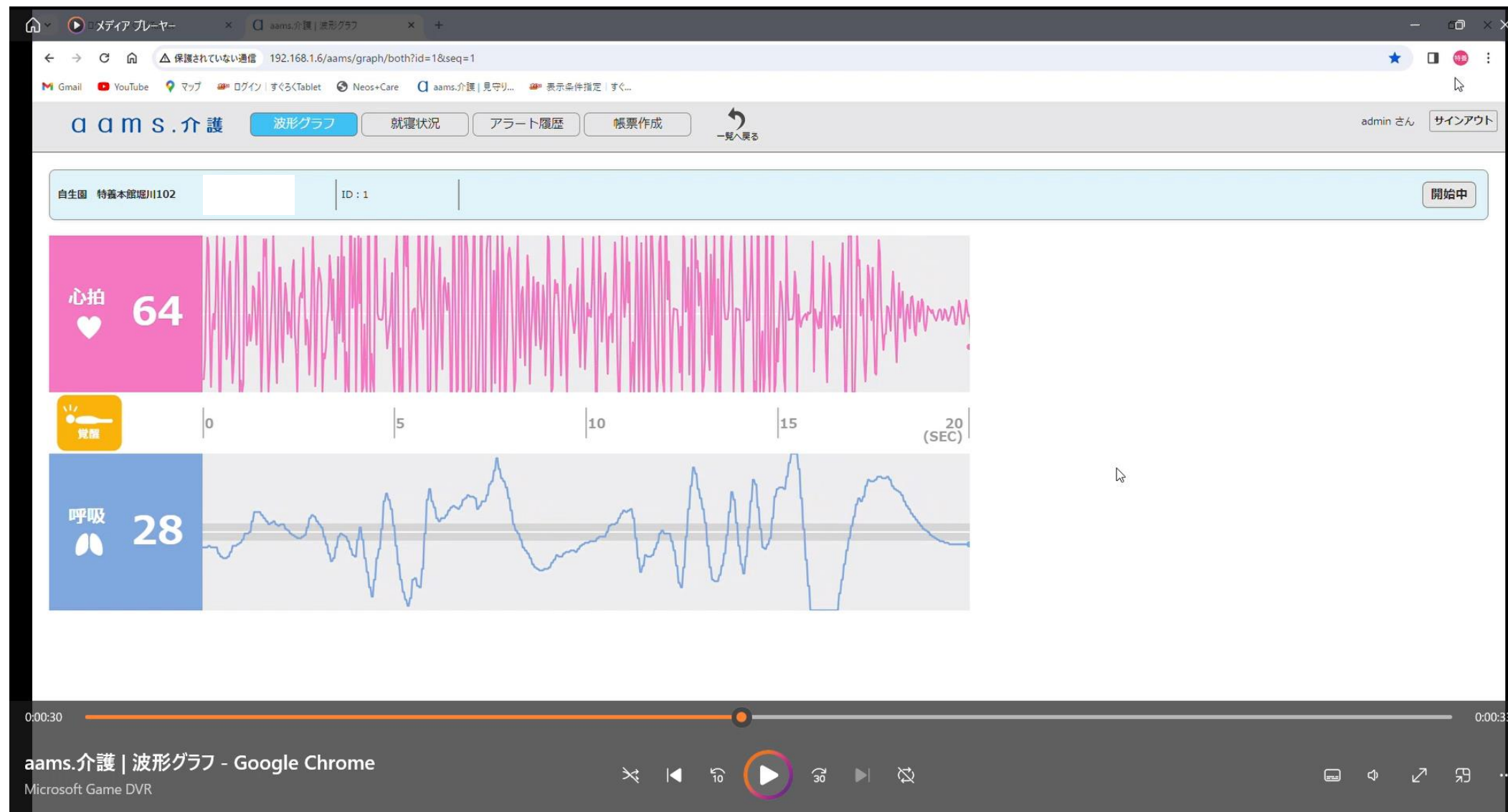


- センサーマットをマットレス下に挿入
- センサーマットから感知される心拍，呼吸，体動の生体情報をサーバーを通してモニターに表示

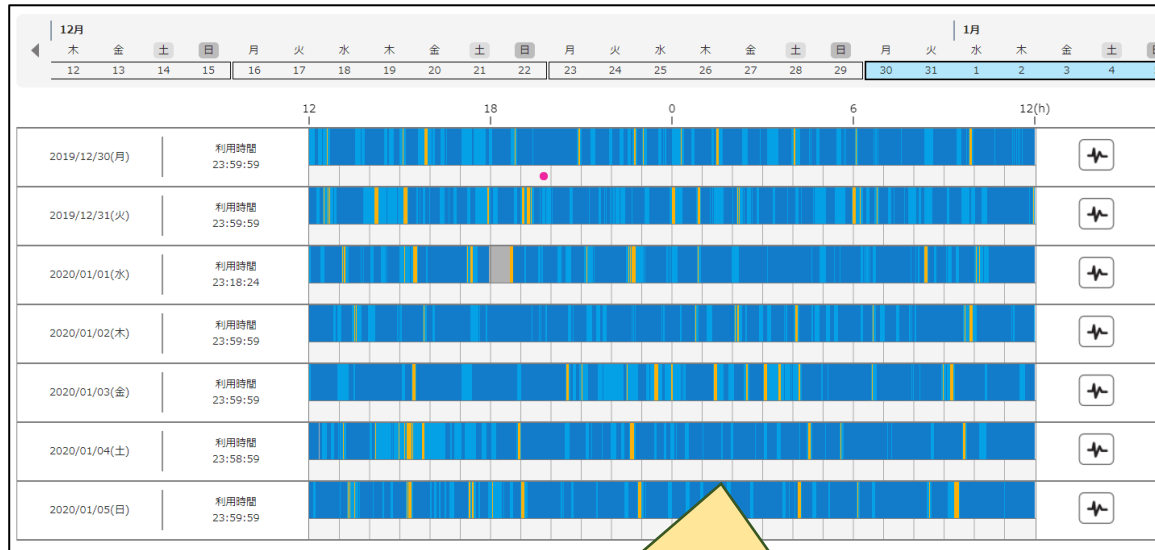


- リアルタイム，履歴での確認
- 迅速な対応につなげる（ご家族への連絡）

aams 波形動画



評価【睡眠】



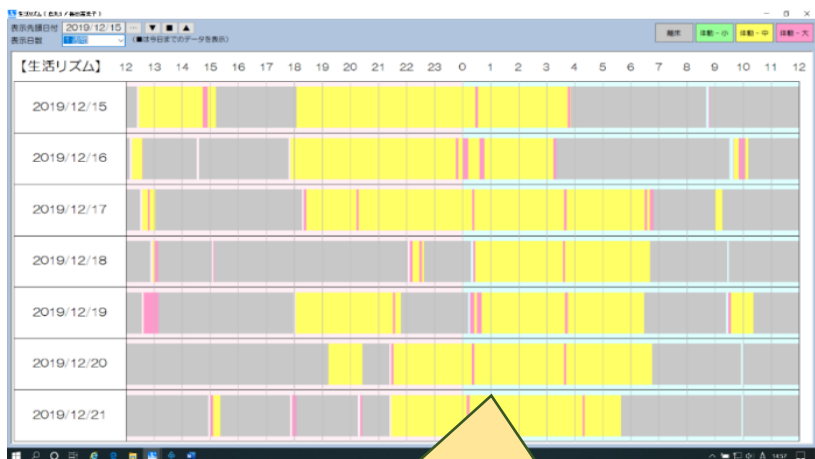
【aams】

睡眠の質を色で見える化

(薄い青) 浅い眠り (濃い青) 深い眠り

- 結果をもとに，日中の活動量の見直し，食事提供・排泄誘導時間を調整

評価【転倒転落】



【見守りケアシステムM-2】

体動履歴から行動パターンを確認

【Neos + care】

検知履歴を活用
動画で詳細を確認

検知履歴	
検知情報	動画
2020/01/10 06:27:36 離床検知	☐
2020/01/10 06:27:17 端座位検知	☐
2020/01/10 05:50:09 起き上がり検知	☐
2020/01/10 05:47:10 離床検知	☐
2020/01/10 05:46:59 端座位検知	☐
2020/01/10 05:46:35 起き上がり検知	☐
2020/01/10 04:18:09 離床検知	☐
2020/01/10 04:17:49 端座位検知	☐
2020/01/10 03:16:58 端座位検知	☐
2020/01/10 03:14:06 離床検知	☐
2020/01/10 03:13:28 端座位検知	☐

- 検知履歴・体動履歴を活用し
行動特性を把握
- 居室内の環境整備
例) ベッドの種類・位置, 手すり,
家具
- 巡回や排泄の時間を調整

Neos+care シルエット動画



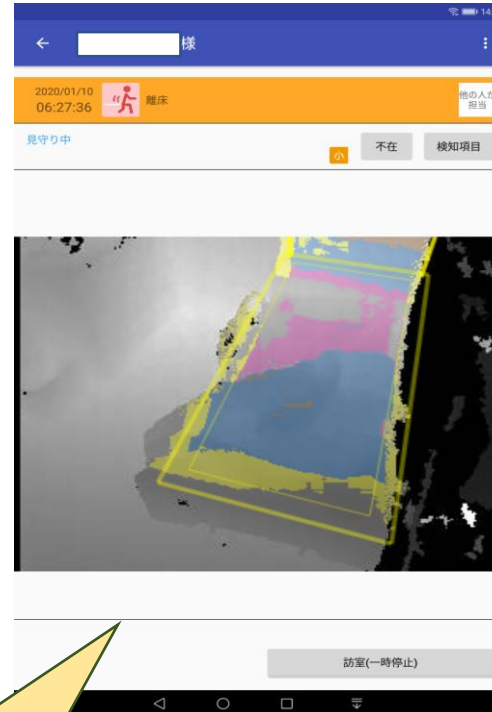
評価における注意事項

期 間 : 約2週間

結果分析 : 検知履歴から評価 → ケアプランに反映

評価内容 : ケア記録に記載し情報を共有

予防【転倒・転落】



【見守りケアシステムM-2】

- ・センサー内蔵
- ・ナースコール連動

【Neos+care】

- ・タブレットに通知
- ・シルエットで確認

- ナースコールがあれば訪室し対応
- シルエットにて適宜もモニター
必要なタイミングで訪室

aams 使用実績（名）

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
看取り	17	12	16	24	29	18	116
睡眠調査	6	18	14	6	8	3	55

* R元年度からaams使用

* R6年10月現在

aams活用後 最期まで立ち会えた実績（名）

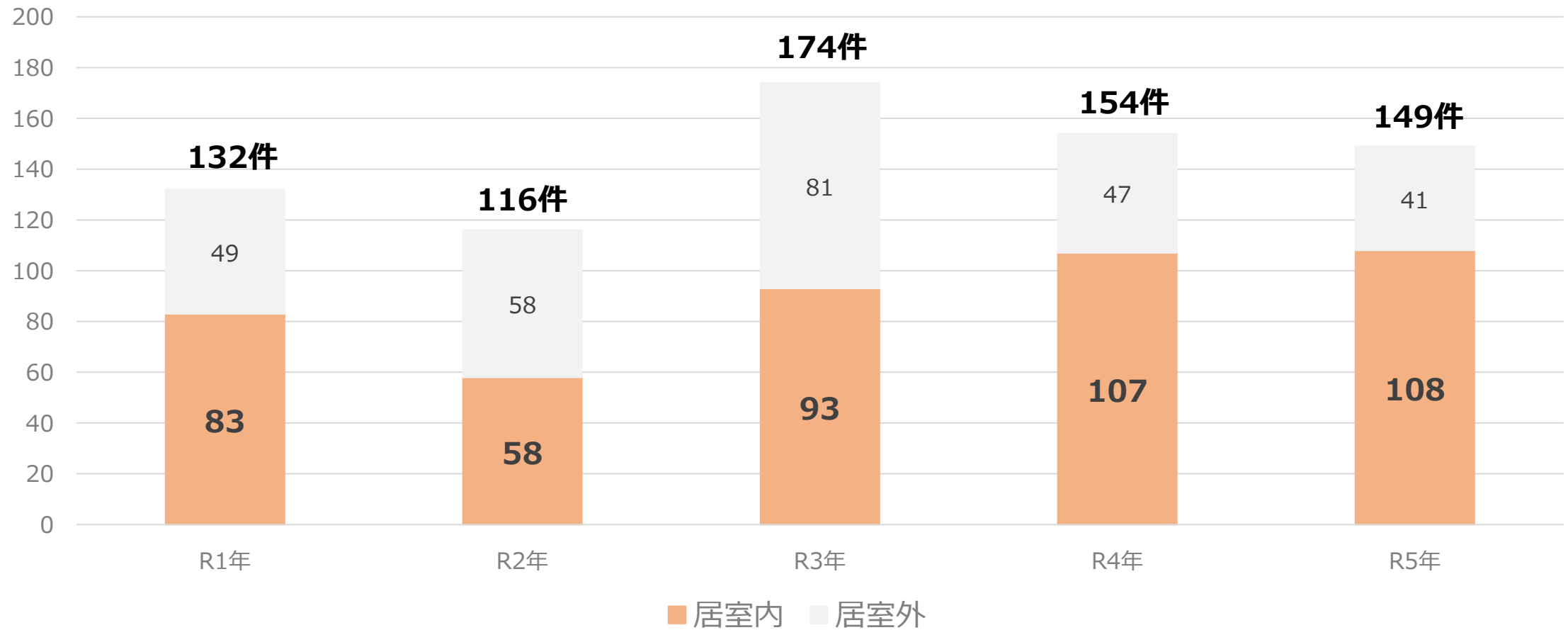


約8割 のご家族が最後まで立ち会うことができる

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
看取り	17	12	16	24	29
立ち合い	15	9	15	19	23
割合	88.2%	75%	93.7%	79.1%	79.3%

* R元年度からaams使用

居室内・外の転倒事故件数



IoT使用実績と事故検証



IoT使用者においては、**約6割**の入居者様に居室内転倒事故を未然に防ぐことができた

	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	合計
M- 2	8	5	8	10	7	38
Neos+care	10	14	15	24	29	92
未事故者	11	15	12	24	21	83
事故予防率	61.1%	78.9%	52.1%	72.2%	58.3%	63.8%

今後の課題

今後の課題①

【介護DX化の推進】

- 会議録や資料，契約書類など **紙で運用しているものが多数存在** している
- 用紙などの **コスト削減**，回覧などの **間接業務の時間削減** が必要
- 現在取り扱っている **書類等の洗い出し，整理**
- **電子化，グループウェアなどの活用** について今後検討が必要

今後の課題②

【見守りセンサー依存からの脱却】

- 当初の使用目的として・・・

入居者に対して、どのようにケアを展開していくのか？ を**考えるためのツール**として活用

- しかし、見守りセンサーを使用することで、いつしか**考える機会が減少**

見守りセンサーから脱却できない状況に

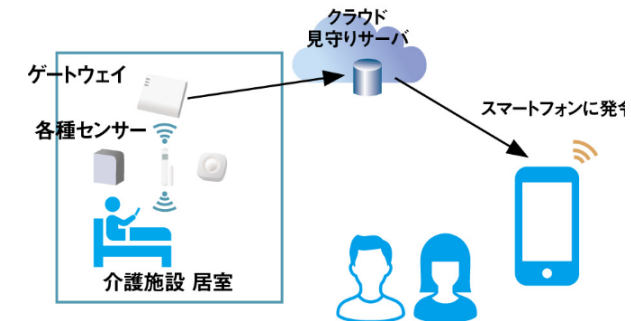
- 今後、考えるためのツールとして活用していけるよう、使用上の**ルールを明確化**する必要あり

まとめ

まとめ

今後もICT・IoT機器等を積極的に活用し

- ① 職員の「働きやすい環境」を提供
- ② 入居者への「介護の質を維持」、「効率的なサービス」を提供



ご清聴ありがとうございました